

## きのくにコミュニティスクール推進協議会 協議概要

1. 日 時 令和3年11月8日(月) 13:30~15:30
2. 会 場 和歌山県自治会館 203会議室
3. テー マ 地域も学校も元気になるきのくにコミュニティスクールのあり方
4. 協議の視点 「共有」と「協働」をいかに具現化していくか
5. 高木委員の講義より

- ・十分な熟議を通じて、学校と地域がどんな力を子供に身につけさせるのか具体的な目標を共有することが大切である。

- ・コミュニティ・スクール導入3~5年間は学校支援・体験重視でよいが、そこから進化して、子供の主体性や協働にしっかり取り組める体制に変えていかなければならない。この部分に着手できると、「社会に開かれた教育課程」が実現する。

- ・学校運営協議会では、年度の到達目標を共通理解した上で、熟議していく必要があるのではないか。また、3~5年のサイクルで長期的な目標やビジョンを作成しておくことも大切である。

- ・学校運営協議会での議題の提案は学校運営協議会委員が行うことが大事である。

- ・学校運営協議会委員と各担当の教職員が「ミニ熟議」を繰り返し、委員にも役割を分担しながら教職員とともにカリキュラム・マネジメントしていくことが大事である。

- ・校長は学校と地域をつなぐ「営業マン」である。

- ・児童会や生徒会の子供の声も取り入れることも必要である。

- ・各市町村において、学校運営協議会の代表と学校長が参加する連携会議は有効である。

### 6. 委員による主な意見

#### (1) 「共有」について

- ・将来に向けての人づくり、地域づくりを県下全体で進めていこうという考えのもと、きのくにコミュニティスクールを進めていることを改めて共有すべきではないか。

- ・学校運営協議会では、課題を明確にし、課題解決に向けて一つずつ取り組んでいくシンプルさも必要ではないか。

- ・どんな子供に育てたいのか、教員だけでなく、保護者や地域の方とも共有し、めざす子供像に迫るために各々がどんな役割を持って、どのように参画するのかというところをベクトルをそろえていくことが大事ではないか。

- ・学校の課題は地域の課題であって、学校の教育課程のあり方も学校だけで決めるのではなく、学校運営協議会で熟議しながら一緒に作り上げていく必要があるのではないか。

- ・学校の課題に着眼点を置いて熟議していくことが大事ではないか。



## (2) 「協働」について

- ・ 子供の声も取り入れた活動が有効ではないか。児童会や生徒会を入れることで、子供の主体性や協働性を高めることにつながるのではないか。
- ・ 地域からの依頼をそのまま受けるのではなく、子供たちに考えさせた上で実践させることで、自己有用感や自己肯定感が生まれてくる。そういう取組こそ大事ではないか。
- ・ 地域も学校も元気になろうと思ったら、熱意のある方、思いを共有できる方に仲間に入ってもらって取り組んでいくことが必要ではないか。
- ・ 学校と地域が目標を共有した上で、機能的な組織を作っていくことが大切ではないか。そこに地域が持っている課題にどう組み合わせていくかが大切ではないか。
- ・ 学校の教育活動と社会活動をどう結びつけるかという視点からコミュニティ・スクールを動かしていくことが大切ではないか。

## (3) 県の広報について

- ・ 県は委員の任命や会の進め方、各地の活動等の情報を積極的に発信すれば、各地の取組も進んでくるのではないか。